

消音ピアノユニットを 独自に開発・販売



西東京市の
企業人

私のこだわりものづくり

ニッシンエレクトロ株式会社

くわ やま のり あき

栗山徳昭 代表取締役社長

昭和24年愛知県生まれ
平成5年に社長就任

◆住所：西東京市芝久保町4-4-32
◆電話：042-465-9321

ニッシンエレクトロ



①消音ピアノユニット「ピアメイト」の本体②装着例。西東京市役所・田無庁舎でも展示され、構造を見ることができる③打鍵した時の鍵盤同士での弦の共鳴なども再現。ピアノ本来の深みのある音が楽しめる

アメリカでも応用製品が好評
ヨーロッパでも取引始まる

西東京市芝久保町に本社があるニッシンエレクトロ株式会社（栗山徳昭社長）は、昭和46年に設立。平成27年に創立44周年を迎えた。当初は音響・映像機器の企画・設置施工の会社としてスタート。その後、業態を変え、現在は、パナソニックが受注した道路や鉄道、通信関連などの公共インフラ系の情報システム機器の設計・製造を行っている。

取り扱うのは、主に特注品や試作品の製作など、月5〜20個単位の小ロットの機器の受注開発。これまで、車両交通量計測システム、ETC車線サーバー、鉄道用ATS装置、金融機関のATM用多重化装置、小さなホテル・旅館や船舶などの電話交換機などを手掛けてきた。

それらの技術を利用して、オリジナルの製品づくりにも注力する。80年代には、外部からの依頼を受け、フェンシングの電気審判器や、点数・勝敗などの表示灯を開発した。団体など国内の大会では、同社の表示灯が今も多く使われる。

90年代には、「既存のピアノに後付けできる消音装置が作れないか」との楽器店からの相談に応え、消音ピアノユニット「ピアメイト」を独自開発した。各家庭にあるピアノに消音ユニットを後付けするもので、ワンタッチで通常のピアノを消音ピアノに切り替えることができる。消音時は、打鍵を非接触光センサーで感知。音はあらかじめ録音された音源を再生して、ヘッドホンで聴く。電子ピアノとは違う、ピアノ本来の自然な鍵盤のタッチが魅力で、微妙なタッチ

を拾う鍵盤センサーが秀逸と高く評価された。シヨールームもない、営業マンもない、大々的に宣伝もしていない中で、20年を超えるロングセラー商品となっている。

同社の技術は海外でも注目されている。アメリカでは、自動演奏装置のトップメーカーであるピアノディスプレイ社が、「ピアメイト」の鍵盤センサーと録音技術を応用。プロが自宅で演奏を録音できる装置を販売し、人気を得ているほか、ヨーロッパでも、消音ピアノ装置を販売している。

「情報システムや電子機器の開発の頭脳集団を自負していますが、オリジナル製品は、フェンシングにしても、ピアノにしても異分野のものばかり。開発は苦労の連続でした」と栗山社長。

フェンシング審判器の開発では、仕様書などの資料はフランス語。辞書を片手に格闘し、フェンシングのルールも一から覚えた。「ピアメイト」の開発では、ピアノの構造から研究を始めた。音源の録音も苦労を重ね、最終的には西東京市内の「保谷こもれびホール」で録音した。

目下の悩みは、公共インフラ系の開発が多いため、12月・1月・2月に仕事が集まってしまうこと。事業の平準化は創業以来の課題で、そのためには「ピアメイト」に続くオリジナル製品の開発を進めたいと考えている。

「自社の技術を生かして他にないオンラインワン製品を作っていきたい。また、アイデアを製品開発につなげたいという企業のお手伝いもしていきたい。責任を持って設計や製品づくりをさせていただきます。ぜひお気軽にご相談ください」と栗山社長は語る。創立50周年に向け、同社の挑戦は続く。